◇===== [第 62 号] =====◇
唯契の窓 唯物論的社会契約論研究所月報 2023 年 8 月 2 日

◇=====◇

暑い日が続いております。皆様にはお変わりないでしょうか。

時候の挨拶のような書出しですが、実のところこれは深刻な問題です。気象庁の資料によれば、7 月 27 日には日本各地の観測地点のうち 804 箇所ですら 30 度以上の真夏日を、251 地点で 35 度以上の猛暑日を記録しています。「災害級の」とか「殺人的」などの冠表現がつくほどの高温を記録しています。

「これも地球温暖化の影響だよなぁ～」などという会話が日常的になされるようになってきましたが、ある意味で人々がこの異常事態に「慣れてしまった」のではないかと危惧しています。「慣れ」は、事の重大さを心理的に受け止められなくなるという意味で、極めて深刻な問題を孕んでいます。

そんな中 CNN がとんでもないニュースを報じました。今回は私たちの「慣れ」を吹き飛ばすような重大な問題提起をしたいと思います。

☆===== [時事解説] =====☆

CNN は、“大西洋の海洋循環、今世紀半ばにも停止か 「早ければ 2025 年」” という衝撃的なニュースを報じました¹。タイトルだけで事の深刻さを理解できた方は、かなり以前から気候変動問題に関心を持たれてきた方だと思いますが、改めて解説しておきたいと思います。

まず「大西洋の海洋循環」とは何かという事ですが、単純に言えば海洋表層のメキシコ湾流が北上して、北大西洋海流(北上して東グリーンランド海流・東進してノルウェー海流)へと続く暖流が、グリーンランドや北極海で熱を放出し、重く冷たい海水となって沈み込むという海水の流れの事です。

この沈み込みは、北大西洋深層水を形成し、海洋深層の流れとなって大西洋を南下し北東太平洋(ベーリング海峡あたり)で表層に湧き上がる 1200 年に及ぶ深海水流(熱塩循環)の起点となるもので、地球環境にとって極めて重要な存在となっています。

「大西洋の海洋循環」が止まるという事は、この地球規模の気候調整システムが止まるという事を意味します。このためニュースソースとなったデンマーク・コペンハーゲン大学の物理気候学者、ピーター・ディトレフセン教授らも

1

<https://www.msn.com/ja-jp/news/opinion/%E5%A4%A7%E8%A5%BF%E6%B4%8B%E3%81%AE%E6%B5%B7%E6%B4%8B%E5%BE%AA%E7%92%B0-%E4%BB%8A%E4%B8%96%E7%B4%80%E5%8D%8A%E3%81%B0%E3%81%AB%E3%82%82%E5%81%9C%E6%AD%A2%E3%81%8B-%E6%97%A9%E3%81%91%E3%82%8C%E3%81%B0%EF%BC%92%EF%BC%90%EF%BC%92%EF%BC%95%E5%B9%B4/ar-AA1emjIB?ocid=msedgntp&cvid=87bda81133b44e5881f322c3cec49e64&ei=26>

“「実に恐ろしい」「軽々しく論文に書くような話ではない」と語っています。ではこの循環（AMOS）が停止するとどうなるのでしょうか。CNNは単に「この循環は世界の気象パターンを維持する重要な役割を果たしているため、停止すれば欧米の極端な異常気象や海面上昇、熱帯の季節風の変化など、各地で重大な影響が出る事態が予想される」とのみ報じています。

この問題の深刻さについては、すでにアル・ゴア元アメリカ合衆国副大統領が2006年に公表したドキュメンタリー『不都合な真実』の中で解説されていますのでそちらを見ていただきたいと思います。ここではその一端のみを紹介しておきたいと思います。

まずメキシコ湾流が、現在その流域の気候にどのような恩恵を与えているかという点から見ていきましょう。

メキシコ湾流は、黒潮と並ぶ世界最大の潮流で、「湾流の幅は200キロメートル前後、厚さは2キロメートルに達し、流量は7400 - 9300万トン毎秒といわれ、その最も速い部分では2.5メートル毎秒という強勢を示す」²とされます。これによって膨大な熱量が低緯度地帯からヨーロッパなどの高緯度地帯に運ばれているわけです。

例えばドイツの首都ベルリンは北緯52度30分59秒 東経13度22分39秒にあります。気候は「夏は温暖でしばしば湿気があり、平均最高気温は23~26℃、平均最低気温は13~15℃である。冬は比較的寒冷で平均最高気温は4~5℃で平均最低気温は-1~0℃であり、時に-10℃を下回ることもある」³とされます。札幌市の緯度は北緯43.05ですから、それよりもかなり北に位置します。札幌市の夏季の平均最高気温は25℃、最低平均気温は17℃で、冬季の平均最高気温は-2℃、平均最低気温は-12℃です⁴。札幌よりも高緯度でありながらベルリンの方が温暖な傾向にあります。

この温暖な気候をもたらしているのが他ならぬメキシコ湾流で、これが止まるとヨーロッパへの熱供給がとまり、ヨーロッパは極端に寒冷化する可能性があります。西ヨーロッパは氷河期を迎えるのではないかと。これが『不都合な真実』で語られた人類の危機です。西ヨーロッパの寒冷化の影響は東ヨーロッパにも及ぶと考えられますが、東ヨーロッパは穀倉地帯として知られており、そ

² Wikipedia 「メキシコ湾流」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%82%B3%E6%B9%BE%E6%B5%81>

³ Wikipedia 「ベルリン」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%83%AB%E3%83%AA%E3%83%B3>

⁴

<https://ja.weatherspark.com/y/144135/%E6%9C%AD%E5%B9%8C%E5%B8%82%E3%80%81%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E5%B9%B4%E9%96%93%E3%81%AE%E5%B9%B3%E5%9D%87%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%B0%97%E5%80%99>

こでの食糧生産が停止することも考えなくてはなりません。メキシコ湾流が運ぶのは熱だけではなく水も運ぶからです。メキシコ湾流が供給する水蒸気が途絶えると、東ヨーロッパは干ばつに襲われる可能性が否定できません。

今日、ロシアのウクライナ侵攻による穀物の世界的な供給の不安定化が問題になっていますが、そもそも穀物が作れなくなってしまうと、世界は食糧をめぐってより深刻な問題を抱えることになるでしょう。

問題はさらに広がります。メキシコ湾流が止まるという事は、冒頭で紹介しましたように、地球規模の熱塩循環システムが止まるという事も意味します。もちろんアイスランド沖と並ぶ海水の沈み込み海域は南極にも存在するので、完全にストップすることはないかもしれませんが、主要な沈み込み域が無くなるという事は、いままでのような熱塩循環は失われることになります。特に流体の場合、流速が落ちると蛇行が始まります。それがどのような結果をもたらすのか、人類は未だ知見を持ちません。

日本の場合にも黒潮や親潮によってかなり影響を受けているので他人事ではすみません。循環はどこかが止まれば即座に全体が止まるという性質もっています。日本の穏やかな気候が即座に奪われる可能性も否定できないわけです。

ではどうすれば良いのか。CNNはこう伝えています。

「研究チームは、温暖化や海氷の融解を抑えるために、温室効果ガスの排出量をゼロにする迅速で効果的な対策が必要だと訴えている。」

結局のところ、対策はそれしかないのですが、ではなぜ今日までCO₂の排出は止められずにいるのか。唯物論的社会契約論はそこに踏み込まねばなりません。そしてその答えもすでに出ています。

全ては企業の利潤追求競争を運動原理とする資本主義経済という社会の仕組みにあります。熱源として化石燃料(石炭)を使い続けるのはなぜか。自社の利益が最優先とされる経済制度の下では、企業は利益の減少に結びつく環境投資などに資金を回すことはできないのです。企業の経営者がどれほど気候変動問題に危機意識を持つ良識人であったとしても、企業としてそれを行動に移すことは許されないのです。それが資本主義の本質です。故に解決策は一つしかありません。

今すぐ、資本主義制度を止めて社会契約経済制度へ移行することです。人類すべてを資本主義の束縛から解放する。グレートリセット、これ以外に私たち人類が生き残る術はありません。

最悪の場合、大破局は二年後に訪れます。

☆=====☆

◆===== [コラム] =====◆

世の中にはこれほどまでに危機意識の薄い人間がいるのかと、あきれぬニュースが毎日のように報じられています。

まずは岸田首相です。

人口減少に歯止めがかからないにもかかわらず、国民涵養政策には見向きもせず、ひたすら大軍拡に走り、膨大な無駄遣いを惜しまない。筆者はこれまで安倍晋三こそが歴代で最愚の宰相であったと思っていましたが、岸田は更に輪をかけた愚相かもしれません。

さらにALPS処理水(トリチウム含有水)の海洋投棄計画の強行です。筆者はALPS処理水の処分問題は、方法によっては日本の宝となるのだと主張してきました。これをきっかけとして水素エネルギー社会(矢部孝教授のいうマグネシウム文明)への移行を世界に先駆けて行うチャンスだというのに、宝の山を海に捨てるとは！ おまけに地元漁連を始め全国の漁業者が不安視していた風評被害が発生してしまいました。中国の輸入規制です。政治的な思惑が背景にあるとはいえ、現実には口実とされてしまっているわけですから、これは風評被害以外の何物でもありません。

加えてマイナンバーカード普及のための保険証廃止政策です。問題山積、トラブル多発にもかかわらず、さらに強行しようという態度。

ここまで危機意識の欠如した愚人も百年来見たことがありません。

日本維新の会の馬場伸幸代表の危機感欠如も並大抵ではありません。

まず自ら維新の会を第二自民党だと吹いて見せたことです。これは今日の人類の危機の最大の原因である資本主義の存続を擁護する発言でありそれだけでも大問題なのですが、ここで指摘したいのはそこではありません。他の発言とも照らし合わせてみると、「維新の会がちょっとばかり国民に受けていて、お調子こいちゃってる発言」だという事です。

馬場氏の発言は、国民に媚びつつ国民を売り渡す維新の本質をまだ誰も知らないことを前提にしているわけですが、国民の間に分断を持ち込み、ひたすらやっているふりをする政策にいつまで国民がついていくと思っているのでしょうか。政策が明らかになればなるほど失われる支持率にどんな期待を持っているのか、驚きます。

◆=====◆

【活動報告】

次回の発行は9月1日を予定しております。